

# 中学校「総合的な学習の時間」学習指導案

奈良教育大学教職大学院生

平群町立平群中学校

教諭 井阪 愛子

1 単元名 「子供から世界を変えていこう」

## 2 単元の目標

- 子どもが健康で幸せな成長を保障するためにある子供の持つ権利を理解した上で、世界の子供たちに取り巻く問題を知り、問題の解決に向けた知識や技能を身に付けようとする事ができる。  
(知識及び技能)
- 世界の子供たちに取り巻く問題について、自分やグループで課題を立て、情報を集め、整理・分析して課題解決に向けて考えることができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- 世界の子供たちに取り巻く問題を自分の事として捉え、自分がこの世界をよりよくしていく主体者として課題解決に向けて社会に参画しようとする態度を身に付けることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 3 単元について

### (1) 教材観

技術・家庭科家庭分野(以下家庭科)「家族・家庭生活」や社会科「公民」において子どもを守る条約や法律、基本的人権と個人の尊重を学ぶ。その法律の一つに日本には「児童憲章」がある。児童憲章の制定は1951年(昭和26年)5月5日であり、戦後間もない混乱期の中でありながら、子どもの持つ権利を大人が確認し、全ての子どもに幸福がはかれるよう、社会の果たす責任と義務が定められた。<sup>1</sup>見方を変えれば戦争の反省に立ち、戦後間もない混乱期であるからこそ必要なものだったのかもしれない。

世界に目を向けると1959年国連において「児童の権利に関する宣言」が宣言され、国際的な法律として「児童の権利に関する条約」が1989年(平成元年)11月20日に第44回国連総会において採択された。(日本では1994年に効力が生じた。)日本の児童憲章や児童の権利に関する宣言から30年以上経って児童の権利に関する条約が採択される現状がある。

つまり、1989年と時代は進んでも、児童の権利を守る条約を今まで世界では結べない状態であり子供たちは人としての権利が守られていないことが、この時国連で確認されたことになる。ただ、日本国には児童憲章があるから子供たちの人権が守られているのかと言えば、言い切れないことも事実である。

世界の子供たちに取り巻く問題に目を向け、問題解決に向けて考え、自分がこの世界をよりよくしていく主体者として課題解決に向けて社会に参画しようとする態度が養われる教材であると考えられる。

### (2) 生徒観

調べ学習を行うと、インターネットなどから、資料を探すことなどは素早くできる。

しかし、なぜインターネット上のその資料が気になったのか。なぜまとめとして自身のレポートに

載せたのかなど説明や理由が書かれておらず、内言で考えたことを外言化し表出できない生徒が多くいる。問題に気づく力はあるが、それを問題と認識できておらず課題を立てることが出来ない状態である。

また、感想を書かせると現在の自分自身の立場から感想を書くことにとどまるため「教育を受けることが出来ることは幸せだと知りました。」「良い環境に住んでいることに感謝しようと思いました。」などと、感謝など受け身の感想が多く、学んだ事から世界をより良いものにしていこうという気概はあまり見られない。

### (3) 指導観

感謝は素晴らしいことだが、感謝ばかりしていても世界は変わらない。反対に「自分さえよければそれでよい」とさえ考えているように感じてしまう。

日本国は幸いにも、子供が自分自身の意見が言いやすい社会である。日本の子供たちが、世界の子供たちのためにリーダーシップを発揮し、子どもの人権が守られるように、生徒達には世界の問題を認識し、問題解決のための課題を立てよりよい社会のために参画していこうという気概を育てたい。

また、視線を身近なところに向けて、私たちの生活は人権が守られているのか。どのようにすればよりよい生活を送ることが出来るのかを考え行動に移していける態度を育てたい。

### (4) ESD との関係

#### ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

公平性…自分さえよければそれでよいのか。誰かの犠牲の上に幸せがあってはならない。

連携性…「住む世界」が違うことなどありえるのか。同じ世界の同じ子供として自分の事として問題を捉える。

責任性…誰かに任せておけば、世界はよりよくなるのか。一人一人が社会に参画する気概を持つ。

#### ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

##### システムシンキング

世界の子供たちに取り巻く問題の原因について考える。

##### クリティカル・シンキング

今までの取組を問い直し、足りなかったことを発見し新たな方法を見いだす。

##### 協働的問題解決力

知識構成型ジグソー法を用いて問題や課題解決の方法を見だし、自分の考えを持つ。

また、社会全体で取り組んでいこうと周りの大人や子供たちにも考えを発信する。

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

##### ○世代間・世代内の公正を意識すること

自分さえよければよいという考えは自分を大切にはできていない。

##### ○人権・文化を尊重すること

子供は人として尊ばれなければならない。

##### ○幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

誰かの犠牲の上に幸せがあってはならない。

・達成が期待される SDGs

1 貧困 3 保健 4 教育 5 ジェンダー 10 不平等 16 平和

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①子どもが健康で幸せな成長を保障するためにある子供の持つ権利を理解する。</p> <p>②世界の子供たちに取り巻く問題の解決に向けた知識や技能を身に付けようとしている。</p>	<p>①世界の子供たちに取り巻く問題について、自分やグループで課題を立てることができる。</p> <p>②情報を集め、整理・分析して課題解決に向けて考えている。</p>	<p>①世界の子供たちに取り巻く問題を自分の事として捉えている。</p> <p>②世界をよりよくしていく主体者として課題解決に向けて社会に参画しようとする態度を身に付けようとしている。</p>

5 単元の指導計画(全6時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 子どもの権利条約についてゲームを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供は人として人権が守られているよね</li> <li>・あれ?なぜこんなことをカードがあるの?</li> </ul> <p>2 児童憲章や子どもの権利条約など子供を守るための法律などを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童憲章は戦後混乱期にできたんだね</li> <li>・子供の権利条約は最近になってできた条約なんだね</li> </ul>	<p>○ユネスコの子ども権利条約カードから、ダイヤモンドランキングを行う</p> <p>○日本も世界も子供たちを守る取り組みを行っていることを知らせたい。</p> <p>○なぜ、1989年になって、子供の権利条約を作る必要があったのか考えさせたい。</p>	<p>(ア)</p> <p>① ②</p>
<p>(・なぜ子供の権利条約を作る必要があったの?)</p> <p>・子供の権利条約ができるまでになぜ時間がかかったの?</p>		
<p>3 世界の子どもたちについて調べてみよう</p> <p>例えば…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童労働</li> <li>・ストリートチルドレン</li> <li>・少年兵</li> <li>・ヤングケアラー</li> </ul> <p>4 生徒達による相互評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じことを調べたはずなのに、内容は違うぞ</li> <li>・もう少し、内容深く知りたいな</li> <li>・同じ班の子のまとめ方を参考にさせてもらおう</li> </ul>	<p>○調べたことを書きだすだけでなく、なぜ調べようと思ったか、どこに問題を感じたかなど自身が考えた事や感じた事も書くように事前にルーブリックを用いて説明する。</p> <p>○相互評価は成績付けのためではなく、最終提出の前に班員でアドバイスをするために行う。(ブラッシュアップ)</p> <p>○専門家として教師もアドバイスを行う</p>	<p>(イ)</p> <p>① ②</p>
<p>・自分さえよければそれでいいの?</p>		

<p>5 同じ問題意識を持った生徒達で集まり 問題の原因を探ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因は一つではないんだな</li> <li>・文句言っても進展はないよね</li> </ul>	<p>○知識構成型ジグソー法を用いて、協働的な活動から学びを深められるようにする。</p>	<p>(ウ) ① ②</p>
<p>・自分や社会ができることって何だろう？</p>		
<p>6 新聞社へ投稿してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの考えを社会に発信してみよう</li> </ul>	<p>○未来に向かう提言をおこなえるようにする。</p>	

<sup>1</sup> 新編新しい技術・家庭家庭分野 東京書籍 p.219

## 6 成果と課題

単元目標と本学習で育てたい ESD の資質・能力より成果と課題について述べる。

事前に家庭科において子育てに関することを含めて、子供の健康で幸せな成長を支援するための取組などを学習した後に、総合的な学習の時間においてユネスコ「子どもの権利条約カードブック」を用いてランキングゲームを行った。その際には、子どもの権利条約が書かれたカード一枚一枚を真剣に読む生徒の姿があった。ランキングゲームはこの単元の導入にあたるが、事前に教科で学んでいたことから、子供の持つ権利を理解しようと積極的になったものと思われる。(図1)



図 エラー! メイン文書しかありません。 子どもの権利条約カードブックを読む様子  
次にフェアトレードの説明の際に、カカオ農園で働く少年のビデオ視聴から、生徒と同世代の子供が教育も十分に受けることもできずに低賃金で家族のために働く姿に感じるものがあった様子であった。その後、夏休みの宿題で「世界の子どもたち」について調べ学習を行った。生徒達の感想から子どもの持つ権利について理解を深め自身の考えが芽生えている様子であった。(図2)

(子どもの権利条約を)調べていて当たり前のことが書かれていて、イライラしてしまった。でもこれに書かれているってことは守れていないからだと思った。でもこれが守られると少しでも平和になると思うし、決して難しいことではないと思うから、これを広めていきたいと思った。

図 2 夏休みの宿題\_生徒の感想

---

しかし、図3のように、多くの生徒は現在の自分自身の立場から感想を書くことにとどまるため「教育を受けることが出来ることは幸せだと知りました。」「良い環境に住んでいることに感謝しようと思いました。」などと、感謝など受け身の感想が多く、学んだ事から世界をより良いものにしていこうという気概はあまり見られなかった。

アフリカでは紛争があると聞いていましたが、子どもも参加している(少年兵など)と聞いて驚きました。自分は日本に生まれて紛争が少ない国に生まれることができるとても幸運だと思いました。子供兵士の減少を心より願うばかりです。

図 エラー! メイン文書しかありません。 夏休みの宿題\_生徒の感想②

また、本校生徒は、調べ学習を行うと、インターネットなどから、資料を探すことなどは素早くできる。

しかし、なぜインターネット上のその資料が気になったのか、なぜまとめとして自身のレポートに載せたのかなど説明や理由が書かれておらず、内言で考えたことを外言化し表出できない生徒が多くいる。問題に気づく力はあるが、それを問題と認識できておらず課題を立てることが困難な生徒が多くみられるため、今回の学習で課題を立てることができるよう支援を意識してきたが、不十分であった。今回、知識構成型ジグソー法を用いて問題や課題解決の方法を見いだすまで授業を行うことが出来なかったことが原因であると考えられる。

しかし、「私自身が必死に学ぶことで、世界の状態が少しでもよくなれば良かった。」「私たちが世界で今回調べたような人々を助けなければならないと思いました。教育は子どもにとって大切なことがわかりました。」と感想に書く生徒達も出てくるなど、自分さえよければそれでよいわけではなく、今は課題を立てられずとも、これからの学びを通して世界をよりよくしていきたいという思いを持つようになったことは、今回の学習の成果としたい。

学年末に期待する生徒像

この世界をよりよくしていく主体者として自覚が芽生え、  
自身で課題を立て問題解決に向かうことができる

単元名

子どもから世界を変えていこう  
～感謝だけでは世界は変わらない～

キーワード: 誰かの犠牲の上に幸せがあってはならない、誰かに任せておけば世界はより良くなるのか

ESD: ★問題を認識できる力 → 「課題を立て問題解決に向かうことが出来る」

総合: よりよく課題を解決し、自己の生き方を考える

総合: 子どもの権利条約の  
ワークブック

総合: 世界の子どもたちに  
ついて調べてみよう

総合: 問題の原因を  
探ろう

総合: 自分や社会が  
できることって?

教科: 平和で民主的な国家及び社会の形成者よりよい生活

道徳科: あの日生ま  
れた命

家庭科: 子供の健や  
かな成長のために

社会科: 基本的人権  
と個人の尊重

社会科: 行政の役割

社会科: 子供の人權

道徳科: 本当に意味  
のある国際協力

人権と法律  
について考  
える

法律や子ども  
の権利につい  
て知る

今まで見えてな  
かったことへの  
気づき

社会全体で取り組んでい  
こうと周りの大人や子供  
たちにも考えを発信する。  
今までの取組を  
思い直し、足りな  
かったことを発  
見し新たな方法  
を見いだす

よりよい世界に変え  
ていくのは、私たちが

世界の子どもたちに取り巻く問題

社会に参画する態度を身に付けようとしている

持続可能な社会へ